

支店を核に組合員組織活性化 に取り組むＪＡ福岡市

調査第一部長 齊藤由理子

1 組織活性化プロジェクト

ＪＡ福岡市は福岡県福岡市（東区の一部を除く）を管内とする、信用事業中心で大型の都市農協である。組合員２万５千人中准組合員が７割を占め、また都市化の進展で農家、農地の減少が続いている。

本農協では、組合員組織を重視しその活性化に取り組んでいる。04年度には組織活性化プロジェクト会議を設置した。組織の再点検で多くの組織に弱体化の傾向がみられたが、「組織無くしては農協の存在はあり得ない」を前提に組織の今後のあり方を協議・検討した。

これらを受けた組織活性化の取組みで注目されるのは協同活動の拠点としての支店重視である。以下では、農事組合等地域や支店を基盤とする組織の現状とともに、支店行動計画を核に様々な組合員組織が連携することで組織、地域の活性化を図る取組みを紹介する。

2 農事組合の組織・機能とその弱体化

まず、組合員組織のなかでも、これまで農協の基礎組織としての役割を担ってきた農事組合の現状をみてみよう。農事組合は集落単位に257あり、主に正組合員からなる。農事組合長中心に、営農情報等の農協からの情報の組合員への伝達、資材注文の取りまとめ、組合員の意見取りまとめを行う。米の生産調整の集落内調整や現地確認をし、畦畔の草刈や集落の各種行事にもかかわる。農協の基礎組織に加えて農政の対応組織、集落の農業に関する自主組織という面を持ち、農業者（＝正組合員）の農業を中心とした集落内ネットワークとして機能してきた。しかし、最近で

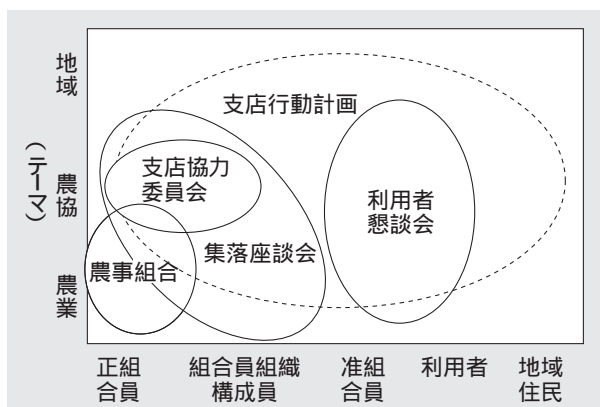
は農家数や組合員数減少により、農業を行っていない農事組合長や、組合長一人だけの農事組合がでてきており、組織や機能の弱体化がみられる。

3 地域を基盤とした組織・会議体

地域を基盤とした組織や会議体には、農事組合のほかに支店協力委員会、集落座談会、利用者懇談会などがある。それぞれ機能は異なるが、農事組合とこれらの組織も合わせると、メンバーは正組合員から利用者、テーマは農業、農協、地域と幅広い分野をカバーして、全体として農協の関係者や事業の拡大に対応していることがうかがえる。（第1図）

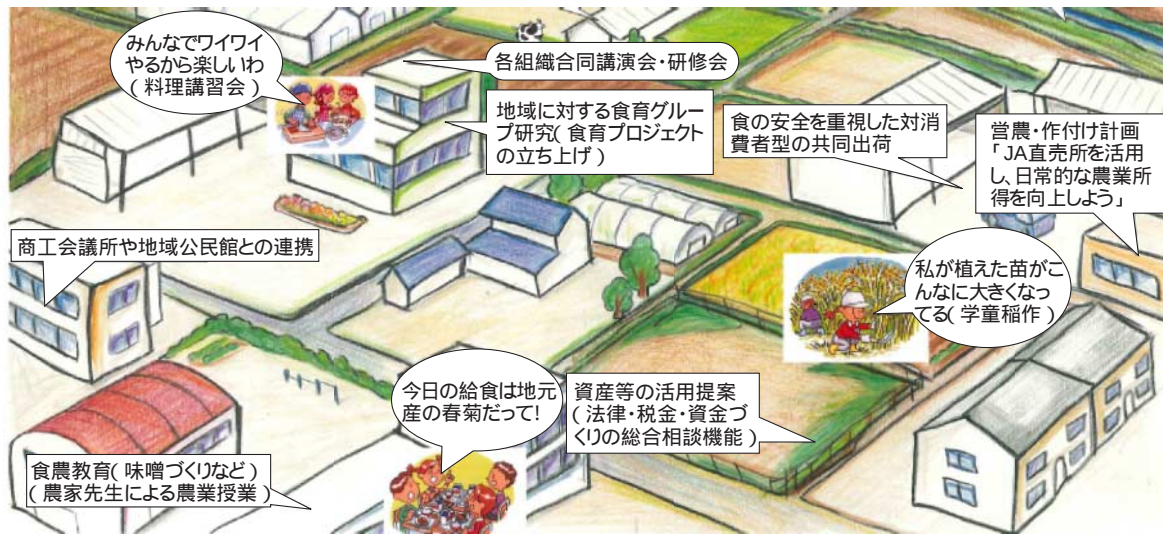
支店協力委員会 支店協力委員会は、合併後に設けられた旧農協の理事による支店運営会の流れをくみ、委員が組合員を代表して支店運営について支店に助言する組織である。委員は、集落ごとに1名程度、1支店におおむね10名の組合員を選出する。会議では、理事会の内容などを地元理事から委員に説明

第1図 JA福岡市の地域における組合員組織等のメンバーとテーマ



資料 JA福岡市での聞き取り調査と組織活性化プロジェクト「組織活性化プロジェクト報告」より作成

第2図 支店行動計画(案)および地区ビジョン<部分>



し委員は支店に対し意見を述べる。後述の支店行動計画の策定・実践では中核的な役割を担う。

集落座談会の見直し 集落座談会は、組合員が農協に対して直接意思反映をする場であり、農事組合が主催し、支店が事務局である。07年に見直しに着手し、一部支店では、従来の正組合員中心から女性部や資産管理部会等の組合員組織の構成員にも参加を呼びかけた。内容は2部構成とし、第1部では参加者全員を対象に税制の説明や各組織の案内、活動報告等を行い、第2部は正組合員を対象に水田農業中心の内容とした。

利用者懇談会 02年度から、年1回、准組合員と非組合員の農協利用者に農協のよき理解者となってもらうために、利用者懇談会を支店主催で開催している。農協の直売所(博多じょうもんさん市場)や農場の見学、農協の活動・事業を紹介するビデオの上映、おみやげに管内農産物のプレゼントといった内容を取り入れながら、利用者からの質問・要望を受ける場となっている。

4 支店行動計画

本農協は支店行動計画を支店における組織活性化のキーポイントとする。支店行動計画は、組合員、地域に対し支店を中心に何をするのかを明らかにするものであり、2000年度から作成している。組合員が主人公となる計画であるべきとの農協の思いがあり、計画作りには支店協力委員を中心に農事組合、女性部、青年部など各組合員組織が加わり、計画の実行段階でも組合員が活躍する。

「彼岸花の郷づくり」を行動計画とした支店では、農事組合と協力委員が計画の提案者である。彼岸花の植栽は地域住民も参加し、おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、孫の3世代約200名が参加するイベントとなった。

行動計画を絵に描いた支店もある。女性部が学校で味噌づくりをし、青年部は学習田で小学生と稲作を行う計画が会議で出されると、他の組織はそれならば我々はわら細工を、と手を挙げたということである(第2図)。

支店行動計画を核に様々な組合員組織が連携し、かつ地域住民も巻き込んで、地域に密着した協同活動を行っている。

(さいとう ゆりこ)